

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 5 部門第 2 区分

【発行日】令和 2 年 12 月 17 日 (2020.12.17)

【公表番号】特表 2020-502448 (P2020-502448A)

【公表日】令和 2 年 1 月 23 日 (2020.1.23)

【年通号数】公開・登録公報 2020-003

【出願番号】特願 2019-534276 (P2019-534276)

【国際特許分類】

F 1 6 B 5/02 (2006.01)

B 6 0 R 9/04 (2006.01)

F 1 6 B 5/07 (2006.01)

F 1 6 B 9/02 (2006.01)

【F I】

F 1 6 B 5/02 P

B 6 0 R 9/04

F 1 6 B 5/07 K

F 1 6 B 9/02 C

【手続補正書】

【提出日】令和 2 年 11 月 5 日 (2020.11.5)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

第 1 の支持体を前記第 1 の支持体に面して配置される第 2 の支持体から分離する空間を満たすための角度調整を備えるスペーシングデバイス (1) であって、前記スペーシングデバイス (1) は、

- 前記第 1 の支持体に堅固に接続されることが意図されおよび雌ねじ (2 c) を有する取付部 (2)、

- 雄ねじ (3 c) および球状先端付き支持端 (3 b) を有するスペーシング部 (3)

、

- フッキングシステム (4 a) を含む駆動リング (4) であって、前記スペーシング部 (3) 内に収容されおよび当該部に結合される、駆動リング (4)、

を含み、

前記取付部 (2) および前記スペーシング部 (3) は、それらそれぞれのねじ山 (2 c、3 c) で一緒に組み立てられ、および前記スペーシングデバイス (1) を前記第 1 の支持体および前記第 2 の支持体を分離する距離に調整するために互いに関して軸方向に移動可能であり、前記スペーシングデバイスは、前記スペーシング部に抗して保持されおよび前記駆動リング (4) の前記フッキングシステム (4 a) によって維持される支持リング (5) であって、前記第 2 の支持体を圧迫するための第 1 の平坦面を有する支持リング (5)、および前記スペーシング部の第 2 の球状面 (3 b) を含むことを特徴とするスペーシングデバイス (1)。

【請求項 2】

前記駆動リング (4) は、ツールによるトルクの印加を容易にするための少なくとも 1 つのボスまたは少なくとも 1 つの凹部を備えることを特徴とする請求項 1 に記載のスペーシングデバイス (1)。

【請求項 3】

前記フッキングシステム（4 a）および前記支持リング（5）は、前記支持リング（5）の移動を可能にするのに十分な操作作用の隙間を有することを特徴とする請求項 2 に記載のスペーシングデバイス（1）。

【請求項 4】

前記フッキングシステム（4 a）は、前記支持リング（5）の内部肩部（5 a）を受け入れるための少なくとも 1 つのノッチ（4 d）によって形成されることを特徴とする請求項 3 に記載のスペーシングデバイス（1）。

【請求項 5】

前記ノッチ（4 d）は、外部肩部（4 b）および可撓性ラグ（4 e）によって担持される維持フランジ（4 c）によって画定されることを特徴とする請求項 4 に記載のスペーシングデバイス（1）。

【請求項 6】

前記外部肩部（4 b）は、前記可撓性ラグ（4 e）によって担持されることを特徴とする請求項 5 に記載のスペーシングデバイス（1）。

【請求項 7】

前記取付部（2）は、支持体本体（2 b）および維持部材（2 a）を含んで、前記デバイス（1）が前記第 1 の支持体に堅固に接続されることを可能にすることを特徴とする請求項 1 から 6 のいずれか一項に記載のスペーシングデバイス（1）。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 2】

スペーシングデバイスは、スペーシング部に抗して保持されおよび駆動リングフッキングシステムによって維持される支持リングを含み、支持リングは、第 2 の支持体を圧迫する（bear on）ための第 1 の平坦面、およびスペーシング部の球状先端付き端を受け入れる第 2 の球状キャップ面を有する。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 7】

取付部 2 およびスペーシング部 3 上に設けられるねじ山 2 c、3 c は、支持リング 5 の平坦面の一部が第 2 の支持体 7 b と接触するまで、スペーシング部 3 を軸方向に移動させる。この支持体 7 b は、第 1 の支持体 7 a と数度であり得る角度オフセットを有する。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 2】

スペーシングデバイス 1 が、また、相補要素のための取付支持体として使用されるとき、スペーシングデバイス 1 の設置および調整は、相補要素を、例えば、第 1 の支持体 7 a の外面上に取付部 2 で位置決めする前に、行われる。ツール 6 は、したがって、デバイス 1 を位置決めするために、支持体のこの側上において挿入されることができ、次いで、考えられる相補要素は、最終組立段階の間、例えば第 2 の支持体 7 b の外面の側上で導入される貫通取付ねじを挿入することによって、取付部 2 上に固定されることができ、相補要

素は、次いでナットを形成する。